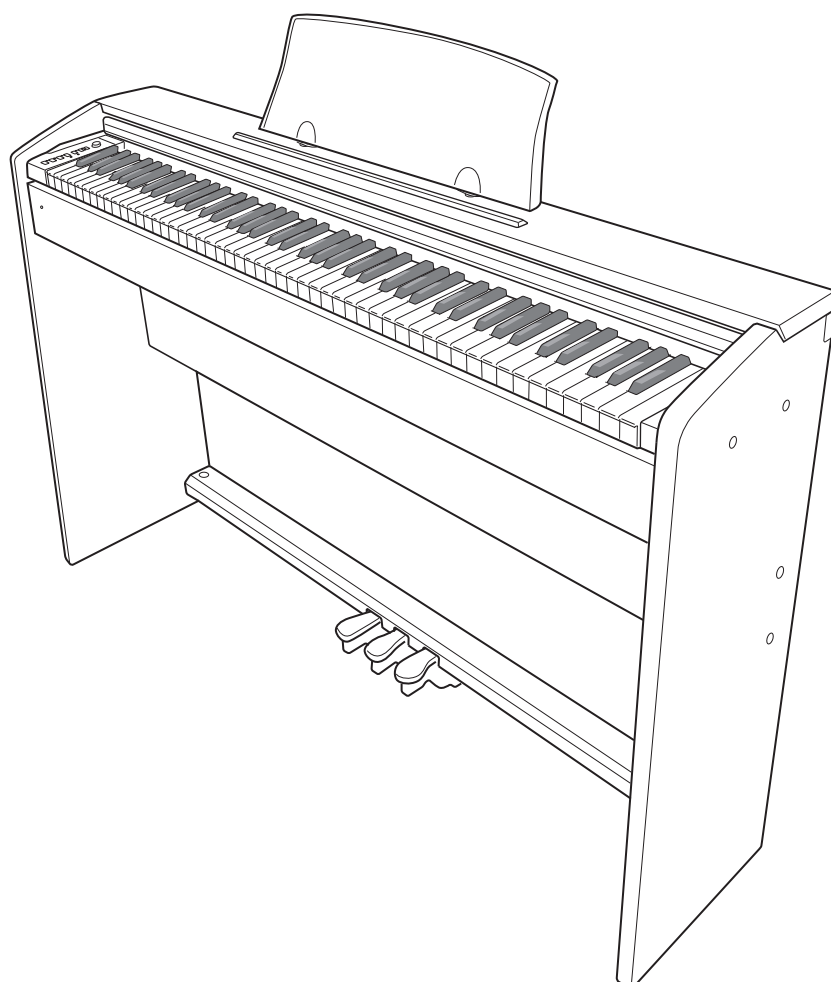
J

Privia

PX-730
PX-7

取扱説明書（保証書別添）

この取扱説明書は、お読みになったあとも、
保証書とともに、大切に保管してください。

「安全上のご注意」
ご使用前に、添付別紙「安全上のご注意」を
お読みの上、正しくお使いください。

スタンド／譜面立て付	• 組み立て方法は、25ページをご覧ください。 • ネジ類は発泡スチロール緩衝材内にあります。詳しくは本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」を参照してください。

CASIO

Z

■JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

このマークはEU諸国における
リサイクル規制のマークです。

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

目次

各部の名称

【底面部】
①
②
③
④
背面
VOLUME
MIN
MAX
⑤
FUNCTION
⑥
▶/■
DEMO
SONG
⑦
RECORDER
⑧
L
METRONOME
⑨
R
MODERN
GRAND PIANO
REVERB
⑩
CLASSIC
CHORUS
⑪
ELEC PIANO
DUET
⑫
【前面部】
⑬
POWER
ON/OFF
⑭

⚠注意
- 本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

メモ
- ☞マーク右の数字は、参照ページです。
- 各部の名称は、本書の説明文中で太字で記載されます。

① ペダルコネクター ☞29

② **USB**（ユーエスビー）端子 ☞22

③ 電源端子（DC 12V）☞4

④ **PHONES**（ホンズ）端子 ☞5

⑤ **VOLUME**（ボリューム）つまみ ☞5, 7

⑥ **FUNCTION**（ファンクション）ボタン ☞3, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 15, 16, 17, 23

⑦ **SONG**（ソング） **▶/■**ボタン ☞10, 12, 13, 15, 16

⑧ **RECORDER**（レコーダー）**（L）**ボタン ☞13, 14, 15, 16

⑨ **METRONOME**（メトロノーム）**（R）**ボタン ☞10, 13, 15, 16

⑩ **GRAND PIANO**（グランドピアノ）**（MODERN**（モダン）**）**ボタン ☞6, 8, 23

⑪ **GRAND PIANO**（グランドピアノ）**（CLASSIC**（クラシック）**）**ボタン ☞6, 8, 23

⑫ **ELEC PIANO**（エレクトリックピアノ）ボタン ☞6, 11, 23

⑬ 電源ランプ

⑭ **POWER**（パワー）ボタン ☞6

FUNCTIONボタンについて

本機では、**FUNCTION**ボタンを使って様々な設定を行います。操作の流れとポイントを、ここでつかんでおきましょう。

● **FUNCTION**ボタンは、これを押しながら、設定項目が割り当てられている鍵盤を押す、という使い方をします。
鍵盤を押して設定を行うと、お知らせのための操作音が鳴ります。

例： 6ページの「演奏を始めるには」

メモ
- 詳しい操作方法や設定できる内容については、17ページ「その他の設定」を参照してください。

● **FUNCTION**ボタンを押している間、本体パネル上にあるボタンは以下の機能に割り当てられます。
- **SONG▶/■**ボタン　：デモ演奏の開始／停止
- **RECORDER**ボタン　：Lパート選択
- **METRONOME**ボタン：Rパート選択
- **MODERN**ボタン　：リバーブ（ボタンのランプは、オン／オフを表示）
- **CLASSIC**ボタン　：コーラス（ボタンのランプは、オン／オフを表示）
- **ELEC PIANO**ボタン　：デュエット（ボタンのランプは、オン／オフを表示）

設定の保存と、操作のロックについて

本機では、各種設定の内容を電源を切った後も保存したり、ボタンをロックして誤操作を防ぐこともできます。詳しくは19～21ページの「設定項目一覧表」を参照してください。

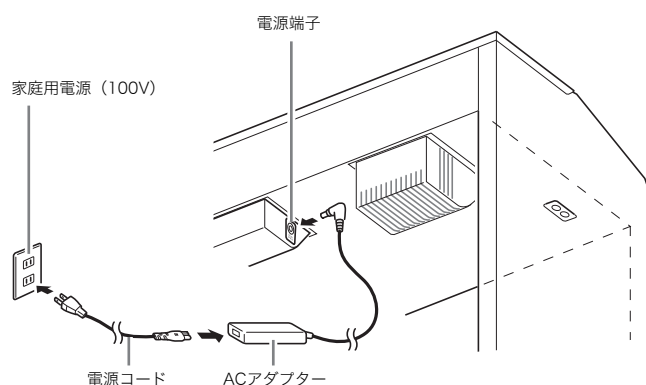
電源について

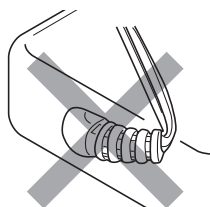
本機は、電源として家庭用電源を使用します。
ご使用後は、必ず電源を切ってください。

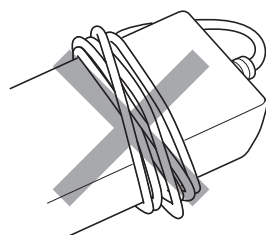
ACアダプターの使い方

本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）を使用してください。付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

本機指定ACアダプターの型式：AD-A12150LW

- ACアダプターの接続には、下図のように付属の電源コードをご使用ください。

コード部の断線防止のため、次の点にご注意ください。

<使用時>
- コードを強く引っ張らない
- コードを繰り返し引っ張らない
- コードの根元部分を折り曲げない

<移動時>
- 本体を移動させる場合は、必ずACアダプター本体をコンセントから外す

<保管時>
- コードは図のようにACアダプター本体に巻き付けず、束ねてまとめる

重要！

- 本機付属のACアダプター（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）は、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。

■付属のACアダプターについて

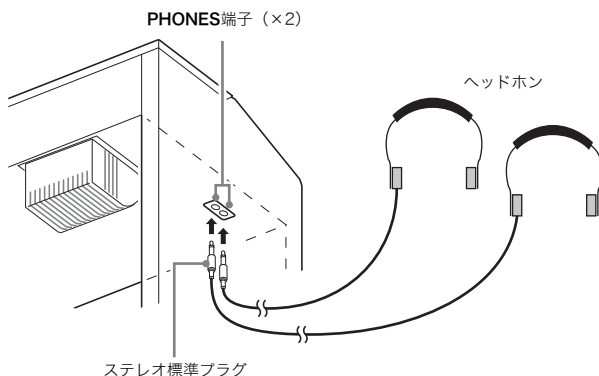
- 本ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差込んで使用してください。不具合が生じた時には、コンセントから直ちに取り外せるようにしてください。
- 本ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などを本ACアダプターの上にのせないでください。
- 本ACアダプターは、湿気のないところで保管してください。
- 本ACアダプターは、広々とした換気のよいところでお使いください。
- 本ACアダプターを、新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 使用する機器を長い間使用しない時には、本ACアダプターをコンセントから外してください。
- 本ACアダプターは、修理することができません。
- 本ACアダプターの使用環境：温度0～40℃
湿度10%～90%RH
- 出力形式：⊖-◐-⊕

接続について

重要!

- 接続の際は、本機のVOLUMEつまみを（接続する機器側にも音量調節があればそちらも）絞っておき、接続後、適切な音量に調節してください。

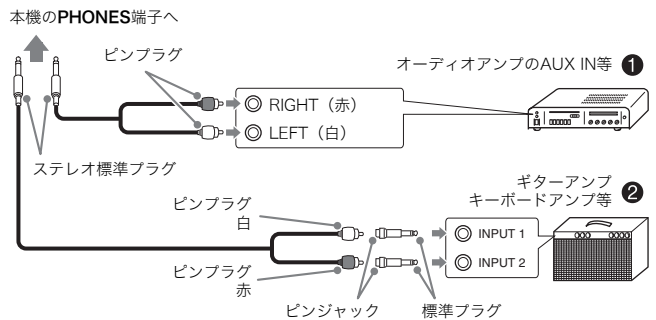
ヘッドホンを接続するには

【底面部】

~~付属のヘッドホン（PX-7のみ）、もしくは~~別売（CP-16）か市販のヘッドホンを、PHONES端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がねなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

メモ

- ヘッドホンのプラグはPHONES端子に根元までしっかり差し込んでください。プラグが根元まで挿入されていないと、ヘッドホンの片側からしか音が出ない場合があります。
- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。
- ヘッドホンのコードを本機から抜くときは、変換プラグだけを本機に残さないようにご注意ください。プラグが残っていると演奏しても音が出ません。

オーディオ機器やアンプと接続するには

オーディオ機器や楽器用アンプと接続すれば、それらの機器のスピーカーの能力に応じた、より迫力のある音量や音質で、演奏を楽しめます。

オーディオ機器と接続するには（図❶）

市販の接続コード（標準プラグ×1、ピンプラグ×2）で図❶のように接続します。その際、片側（本機につなぐ側）がステレオ標準プラグのものをご利用ください。（モノラルプラグでは、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）通常はオーディオ機器のインプットセレクターを、接続した端子（AUX IN等）に切り替えます。音量は本機のVOLUMEつまみでも調節できます。

楽器用アンプと接続するには（図❷）

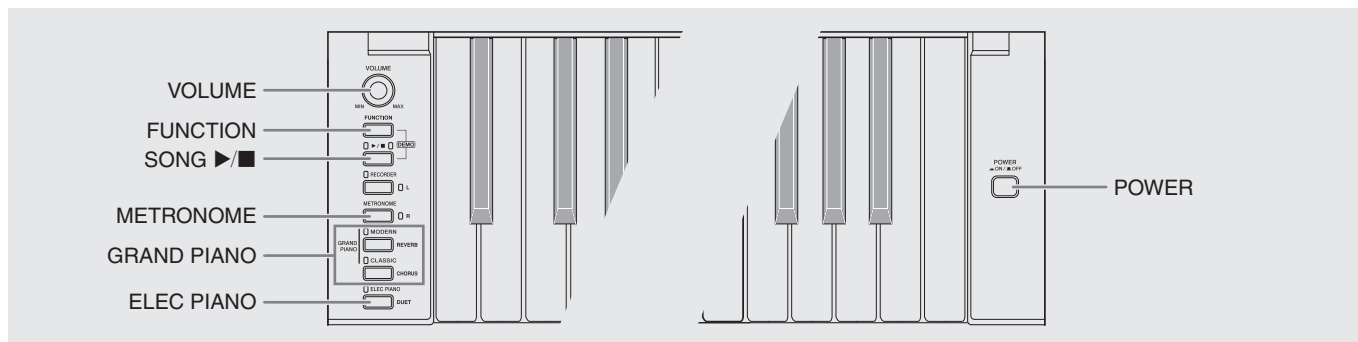
相手側の機器に応じて、市販の接続コード※で図❷のように接続してください。
音量は本機のVOLUMEつまみでも調節できます。

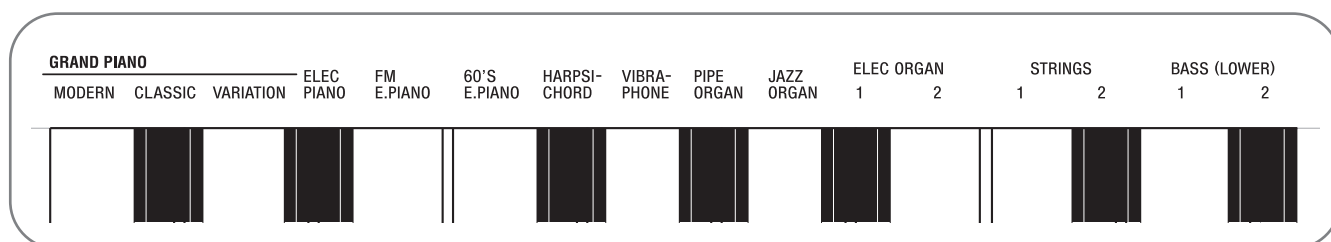
※ 本機につなぐ側　：ステレオ標準プラグのもの
　アンプにつなぐ側：左右両チャンネルの信号が入るようにする。（どちらが欠けても、ステレオ出力の片側分の音しか出ません。）

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

● 付属品の一覧と、別売品のご案内については31ページをご参照ください。
- 別売品については、店頭の製品カタログでより詳しい情報がご覧になれます。
http://casio.jp/emi/catalogue/

いろいろな音色を聴いてみましょう

音色を選んで弾いてみる

本機には、16種類の音色があります。

※ 音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

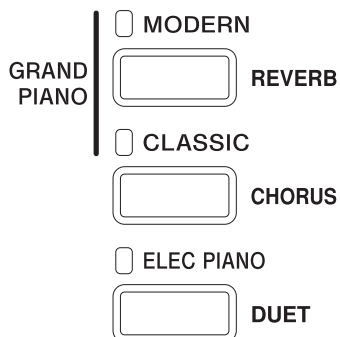
演奏を始めるには

1. 電源を入れます。

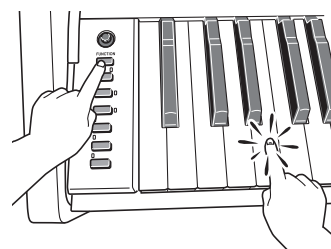
- **POWER**ボタンを押します。
- 本機は電源オン時にシステムの準備を行います。**POWER**ボタンを押すと、**GRAND PIANO**(**MODERN**、**CLASSIC**)、**ELEC PIANO**ボタンのランプが交互に点灯し、約7秒後に使用可能となります。

2. 音色を選びます。

● グランドピアノ音色（モダン／クラシック）またはエレクトリックピアノ音色を選ぶには

- **GRAND PIANO**(**MODERN**、**CLASSIC**)ボタン、**ELEC PIANO**ボタンのいずれかを押します。

- 押したボタンの音色が選ばれて、ランプが点灯します。

● その他の13音色を選ぶには

- **FUNCTION**ボタンを押したままの状態で、選びたい音色に対応している鍵盤を押します。

3. 音量を調節します。
- VOLUMEつまみを使って調節します。

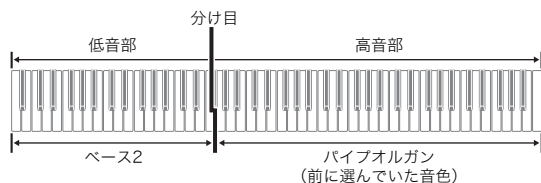
4. 鍵盤を弾いてみましょう。

メモ
- 16種類の音色のうち、最初の2音色はステレオサンプリングによるグランドピアノ音色で、ボタンを使って選べます。
  それぞれ異なる長所を持ったおすすめの音色ですので、演奏する曲やお好みに合わせてお選びください。

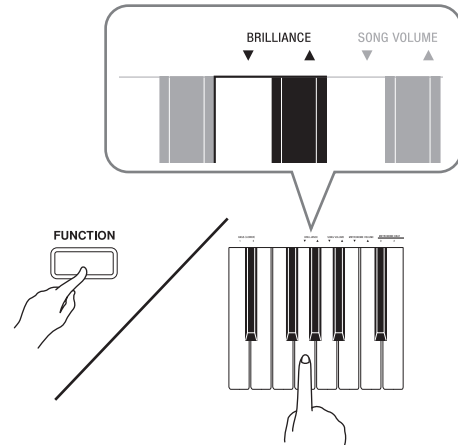
音色名	特徴
モダン	明るめのグランドピアノ音色です。 鍵盤タッチによる音量や音質の変化がつきやすく、残響効果（リバーブ）も深めにかかります。 ダイナミックで華やかな演奏効果をあげるのに適しています。
クラシック	アコースティックピアノに近い、自然な響きと演奏性を持つピアノ音色です。リバーブなどの派手な効果は控えめですが、代わりにアコースティックピアノのペダル使用時の共鳴効果（アコースティックレゾナンス）が分かりやすく、繊細な表現が可能です。 練習にも適しています。

- グランドピアノ音色のVARIATIONは、伴奏に合わせて演奏する場合などに適した音色です。

低音部専用の音色（ベース1/2）について

6ページの手順2で、右端の2つのベース音色（BASS 1/2）を選んだ場合には、低音部（左側）の鍵盤だけが選んだ音色になり、高音部（右側）の鍵盤には前の音色がそのまま残ります。
- このように鍵盤が分かれて、それぞれ別々の音色で弾ける機能を「スプリット」と呼びます。

メモ
- ベース1/2以外の音色を選ぶと、通常の1音色の状態に戻ります。
- 録音機能のトラック2の録音では、ベース音色は選べません。

音色の明るさを調節するには（ブリリアンス）

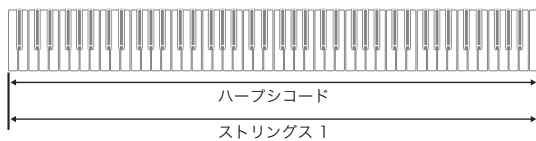
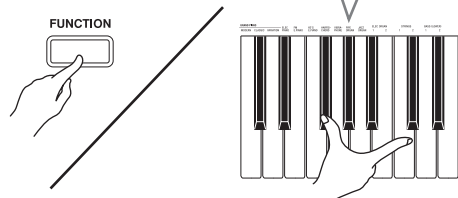
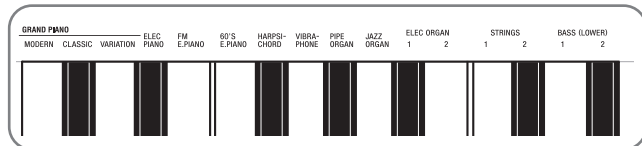
1. FUNCTIONボタンを押したまま、BRILLIANCE鍵盤を押して音の明るさ（−3〜0〜3）を設定します。

▼鍵盤：まろやかな柔らかい感じの音になる
▲鍵盤：明るく硬い感じの音になる

メモ
- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値：0）に戻ります。

2つの音色を重ねてみる（レイヤー）

本機では、2種類の音色を重ねて演奏できます。2つの音色中、先に選んだ音色がメインの音色、後に選んだ音色がレイヤー音色として設定されます。

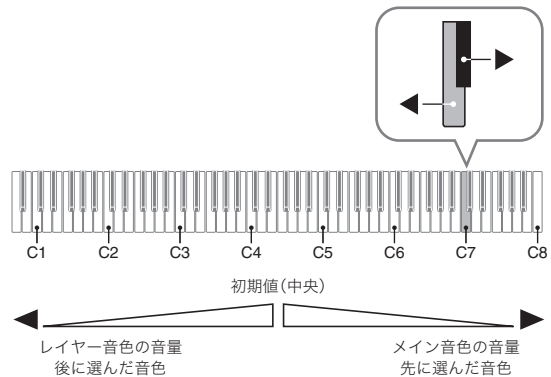
1. FUNCTIONボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を2つ一緒に（先に1つ押しておき、後にもう一つ）押します。

例：HARPSICHORD鍵盤とSTRINGS 1鍵盤を一緒に押す。

2. 元の1音色の状態に戻すには、GRAND PIANOボタンを押す、など音色を選び直します。

メモ

- グランドピアノ音色（モダン／クラシック）またはエレクトリックピアノ音色同士は、いずれか2つのボタンの同時押しでも重ねることができます。
- BASS（LOWER）1と2は、他の音色と重ねることはできません。
- 録音機能のトラック2の録音では、レイヤーの設定はできません。

重ねている2種類の音色の音量バランスを調整するには

1. FUNCTIONボタンを押したまま、以下の鍵盤を押します。

- FUNCTIONボタンを押したまま、上記2つの鍵盤を一緒に押すと、初期の設定になります。

音色に効果をかけてみる（エフェクト）

リバーブ... 残響の効果
コーラス... 音が広がるような効果

リバーブのオン・オフを切り替えるには

1. FUNCTIONボタンを押しながら、MODERNボタンを押すごとに、オン・オフが切り替わります。

- FUNCTIONボタンを押している間は、ボタンのランプが点灯・消灯して、設定のオン・オフ状況が確認できます。

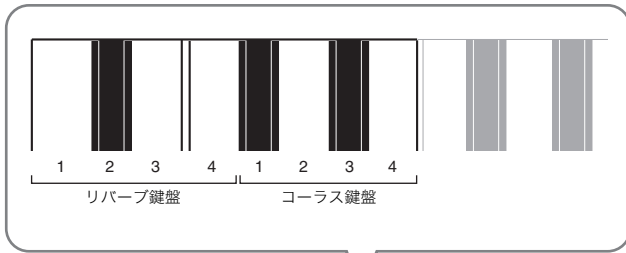
コーラスのオン・オフを切り替えるには

1. FUNCTIONボタンを押しながら、CLASSICボタンを押すごとに、オン･オフが切り替わります。

- FUNCTIONボタンを押している間は、ボタンのランプが点灯・消灯して、設定のオン・オフ状況が確認できます。

効果を設定するには

リバーブ、コーラスには各4タイプあります。

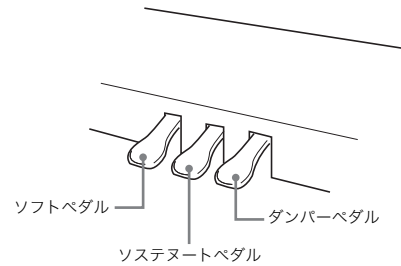
1. FUNCTIONボタンを押したまま、リバーブまたはコーラス鍵盤を押して設定値を選びます。

例： リバーブの4を選ぶ

- リバーブの設定値
  1：ルーム
  2：小ホール
  3：大ホール
  4：スタジアム
- コーラスの設定値
  1：コーラス効果薄め
  2：コーラス効果中位
  3：コーラス効果深め
  4：フランジャー（音にうねりを与える）

■DSPについて

複合的な音響効果をデジタル処理で実現させる効果です。音色ごとにあらかじめかかっています。

ペダルを使ってみる

ダンパー、ソフト、ソステヌートの3つのペダルがあります。

【各ペダルの働き】

● ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤で弾いた音の余韻が非常に長くなります。

- GRAND PIANO音色（MODERN/CLASSIC/VARIATION）を選んでいる場合は、実際のグランドピアノでダンパーペダルを使用している時のような共鳴効果（アコースティックレゾナンス）も生み出せます。また、途中まで踏んで軽く効果をかける「ハーフペダル」にも対応しています。

● ソフトペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、ペダルを踏んでから鍵盤で弾いた音が弱まるだけでなく、音色が柔らかく聞こえる効果が得られます。

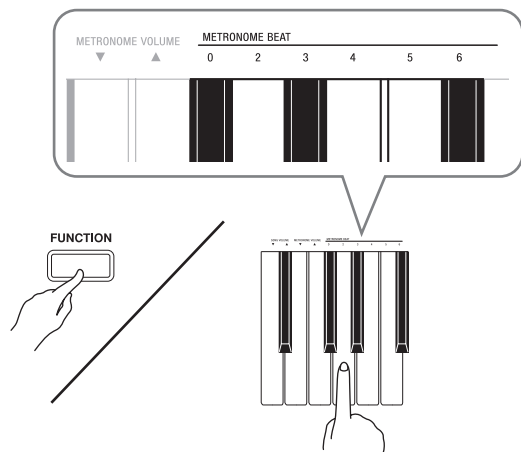
● ソステヌートペダル

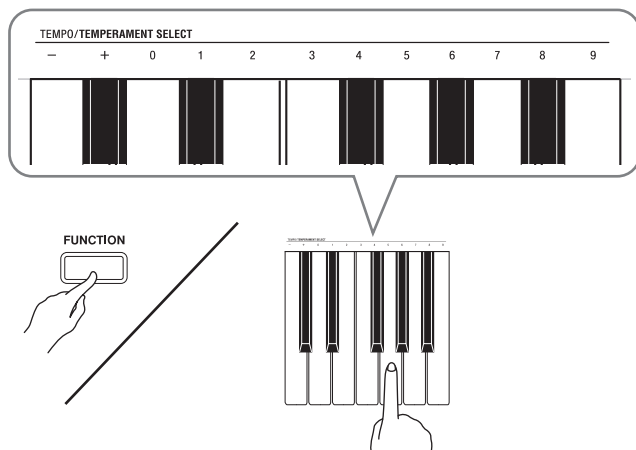
このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、ペダルを離すまで余韻が長くなる効果が得られます。

メトロノームを鳴らしてみる

1. METRONOMEボタンを押します。

- メトロノームが鳴ります。
- SONG ▶/■ボタン上のランプが拍に合わせて点滅します。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、METRONOME BEAT鍵盤を押して拍子を設定します。

- 拍子は、0、2、3、4、5、6拍子から選べます。「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。拍子にかかわらず練習するのに便利です。

3. FUNCTIONボタンを押したまま、TEMPO鍵盤を押してテンポ（20～255）を設定します。

- ＋/－鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、テンポの値を直接入力することもできます。入力は必ず3桁で行ってください。

例： 値“96”なら、“0→9→6”と入力します。

4. メトロノームを止めるには、METRONOMEボタン、またはSONG ▶/■ボタンを押します。

メモ

- 手順3で＋/－鍵盤を一緒に押すと、そのとき選ばれているミュージックライブラリーの曲のテンポ（録音機能を使っている場合は120）になります。

メトロノームの音量の設定

メトロノームが鳴っている／鳴っていないに関わらず設定できます。

1. FUNCTIONボタンを押したまま、「メトロノームの音量」鍵盤を押して音量（0～42）を設定します。

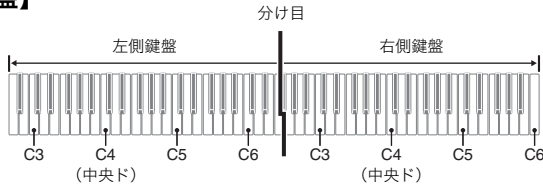
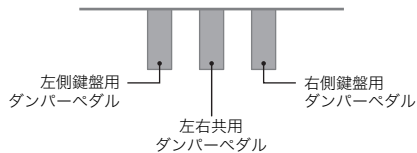
- 使用する鍵盤は、18ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認してください。
- ▼▲鍵盤を押すと、メトロノームの音量が1ずつ上下します。

メモ

- ▼▲鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

2台ピアノにして弾いてみる（デュエット）

鍵盤を中央から左右に分けて、2台ピアノにして連弾ができます。左右の鍵盤はほぼ同じ音域になり、両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。
左側で先生がお手本演奏をして、右側で生徒さんが同じメロディーを弾く、といった活用もできます。

【鍵盤】

【ペダル】

メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

1. 2台ピアノで弾きたい音色を選びます。

例：GRAND PIANO（MODERN）

2. **FUNCTION**ボタンを押しながら、**ELEC PIANO**ボタンを押すごとに、デュエット設定のオン・オフが切り替わります。

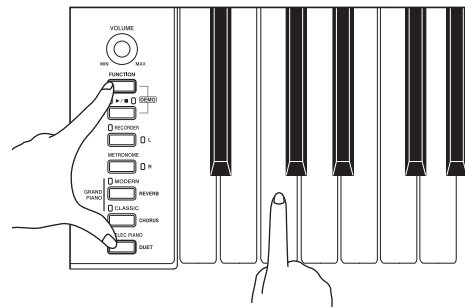
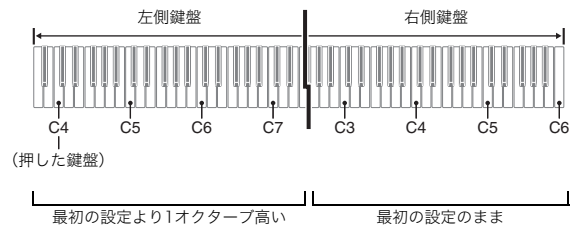
- **FUNCTION**ボタンを押している間は、ボタンのランプが点灯・消灯して、設定のオン・オフ状況が確認できます。

重要！

- デュエットオンでの録音（14ページ）はできません。

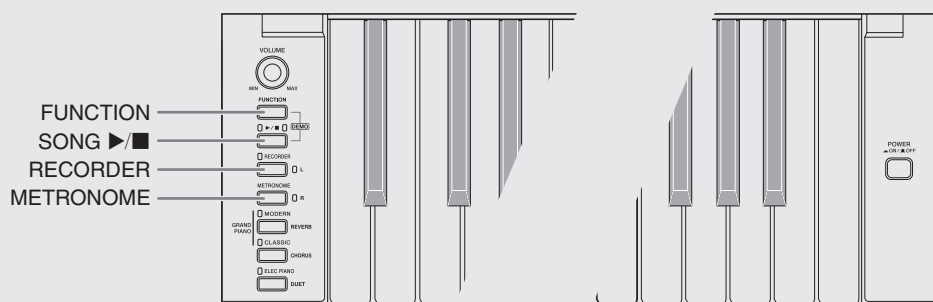
音域を変更するには

最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。
例えばピアノ曲の左手パートと右手パートを2人で分担して演奏しようとすると、最初の設定では音域が足りなくなりがちです。そのような場合に曲に合わせて音域を変更できます。

1. **FUNCTION**ボタンと**ELEC PIANO**ボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。

例：左端のC（ド）の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。

2. **FUNCTION**ボタンと**ELEC PIANO**ボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4（中央ド）の高さに設定したいC（ド）の鍵盤を押します。

メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

曲を聴いてみる（デモ演奏／ミュージックライブラリー）

重要!

- 本機では、曲を変更すると数秒間、曲データの読み込みを行います。読み込み中は鍵盤演奏やボタン操作ができません。また、鍵盤演奏中にこの操作を行うと発音が停止します。

デモ演奏を聴いてみる

本機には60曲（ミュージックライブラリー）が内蔵されています。この全60曲を連続して聴くことができます。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、SONG ▶/■ボタンを押します。

- 01番から60番までの60曲を、番号順に繰り返しデモ演奏します。
- デモ演奏にあわせて、メロディー音色で鍵盤演奏できます。
- デモ演奏中に曲を変更できます。
  操作方法は次項「ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる」の手順2を参照してください。

2. デモ演奏を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

メモ

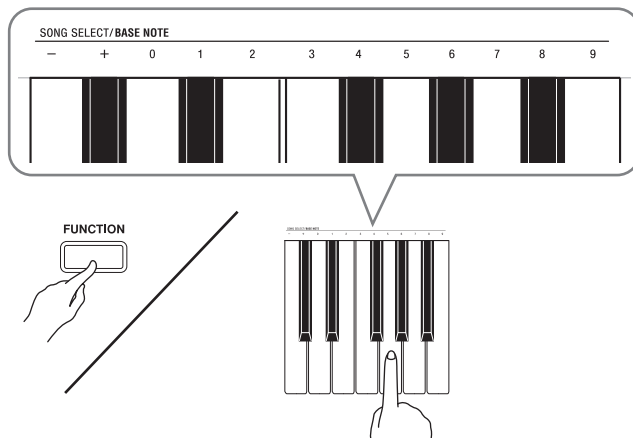
- デモ演奏中は、上記の曲変更と演奏停止以外の操作はできません。

ミュージックライブラリーの曲を1曲ずつ聴いてみる

本機には、ミュージックライブラリー内蔵曲（01～60番）とパソコン※から本機に読み込んだ曲（61番）があります。この中から1曲ずつ選んで聴いてみることができます。

※ インターネットでダウンロードした曲をパソコンから転送します。詳しくは、23ページの「録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む」を参照してください。

1. 32ページのソングリストで、選びたい曲の番号を調べます。

2. FUNCTIONボタンを押したまま、SONG SELECT鍵盤を押して、曲を選びます。

- ＋/－鍵盤を押すと、曲の番号が1ずつ上下します。
- 数値入力鍵盤（0～9）を押して、曲の番号を直接入力することもできます。

例：08番の曲なら、“0→8”と入力します。

3. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 選んだ曲の演奏が始まります。

4. 演奏を止めるには、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

- 曲が最後まで演奏されると自動的に演奏が止まります。

メモ

- ＋/ー鍵盤を一緒に押すと、01番の曲が選ばれます。
- 演奏のテンポや曲の音量を設定できます。設定方法は、17ページの「その他の設定」を参照してください。

ミュージックライブラリーの曲を練習してみる

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習ができます。

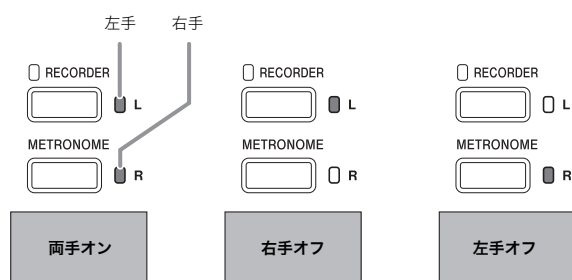
メモ

- ミュージックライブラリーには、連弾曲が入っています。連弾曲を選んだ場合は、第1ピアノ<Primo>または第2ピアノ<Secondo>の音を消して、自分で弾く練習ができます。

準備

- 曲を選び、テンポを設定しておきます。（17ページの「その他の設定」参照）。
- 曲を演奏しているときは、曲調に変化をつけるためにテンポが変化します。

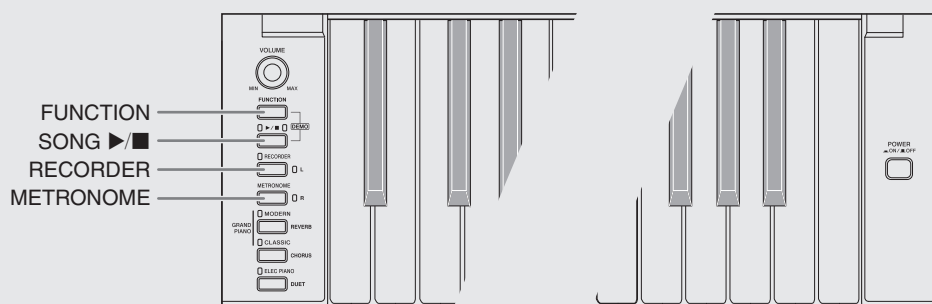
1. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDERボタン（L）またはMETRONOMEボタン（R）を押して、音を消したいパートを選びます。

- ボタンを押すごとにボタン右の2つのランプがそれぞれ点灯／消灯します。消したいパートのランプを消灯させます。

2. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 演奏が始まります。手順1で選んだパートは鳴りません。

3. 音を消したパートを自分で弾きます。

4. 曲を止めるには、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

演奏を録音／再生してみる（録音機能）

本機で演奏した内容を録音して、再生できます。

トラックについて

曲は2つのトラック（録音内容が記録される場所）で構成されています。トラック1、トラック2と順番に録音していけば、録音後に2つのトラックを1つの曲として、一度に再生することができます。

録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。
- 録音できる容量が残り少なくなると、ランプの点滅が速くなります。
- 演奏の途中で録音できる容量をこえると、自動的に録音が止まります。

録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使った音色
- ペダル操作
- リバーブ／コーラス設定（トラック1のみ）
- テンポ設定（トラック1のみ）
- レイヤー設定（トラック1のみ）
- スプリット設定（トラック1のみ）
- 音律／音律の基音(ベースノート)設定(トラック1のみ)
- オクターブシフト設定（トラック1のみ）

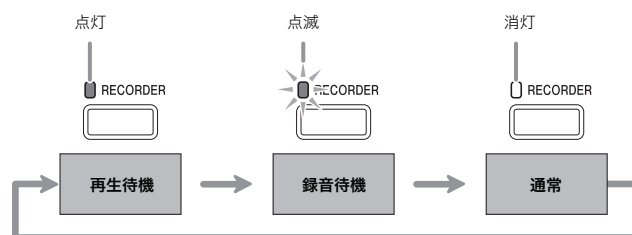
録音内容の保持

- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音してあった内容はすべて消去されます。

重要！

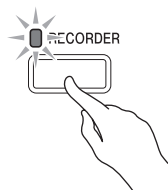
- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

RECORDERボタンの使い方

RECORDERボタンを、1回押すごとに以下のように状態が切り替わります。

演奏を録音してみる

トラック1か2を選んで録音し、さらに録音したトラックの再生に合わせてもう一方のトラックに録音できます。

トラックを選んで録音するには

1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅し、トラック1へ録音待ちの状態になります。

2. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDERボタン(L)またはMETRONOMEボタン(R)を押して、録音するトラックを選びます。

- 録音したいトラックのランプを点滅させます。
  トラック1：Lランプ
  トラック2：Rランプ

例： トラック1を選ぶ

3. 録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

- 音色（6ページ）
- エフェクト（8ページ）

メモ

- メトロノームを鳴らしたい場合は、拍子とテンポを設定して、METRONOMEボタンを押します。設定方法は10ページの「メトロノームを鳴らしてみる」を参照してください。

4. 演奏を開始します。

- 自動的に録音がはじまります。

5. 録音を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

- RECORDERボタンと録音したトラックのランプが、点滅から点灯に変わります。
- 録音した内容をすぐに再生したい場合は、もう一度SONG ▶/■ボタンを押します。

6. 録音や再生が終わったら、RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを消灯させておきます。

録音済みのトラックの再生を聴きながら、もう一方のトラックに録音するには

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。

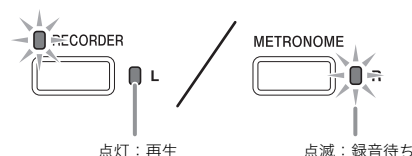
2. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDERボタン(L)またはMETRONOMEボタン(R)を押して、録音済みのトラックのランプを点灯させます。

3. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点滅させます。

- Lランプが点滅します。

4. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDERボタン(L)またはMETRONOMEボタン(R)を押して、録音するトラックを選びます。

- 録音するトラックのランプを点滅させます。

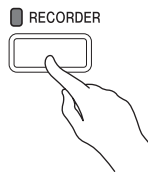
例： 録音済みのトラック1を聴きながら、トラック2へ録音する

5. 必要に応じて、録音に使う音色やエフェクト（トラック1のみ）を設定しておきます。

6. SONG ▶/■ボタンか鍵盤を押して、演奏を開始します。

- トラック1の再生と、トラック2への録音が同時にはじまります。

7. 録音を止めるには、SONG ▶/■ボタンを押します。

録音した演奏を再生してみる

1. RECORDERボタンを押して、ボタンのランプを点灯させます。

メモ

- 両方のトラックに録音済みの場合、一方のトラックの音を消して再生できます。音を消したいトラックのランプを消灯させます。

2. SONG ▶/■ボタンを押します。

- 録音した内容が再生されます。

メモ

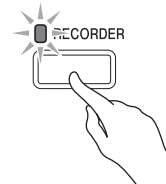
- 再生時は、テンポを変えることができます。
- 途中で止める時には、もう一度**SONG ▶/■**ボタンを押します。

録音した内容を消去するには

録音した内容をトラック単位で消去します。

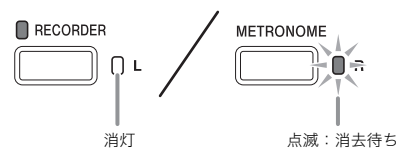
重要！

- 以下の操作を完了すると同時に、録音した内容が消去され、元に戻すことはできません。消去しようとしている内容を一度再生して、消去してもよいことをご確認の上、以下の操作を行うことをお勧めします。

1. RECORDERボタンを2回押して、ボタンのランプを点滅させます。

2. FUNCTIONボタンを押しながら、RECORDERボタン（L）またはMETRONOMEボタン（R）を押して、消去したいトラックを選びます。

3. RECORDERボタンを押し続けて、ボタンのランプを点灯させます。

- 手順2で選んだトラックのランプが点滅します。

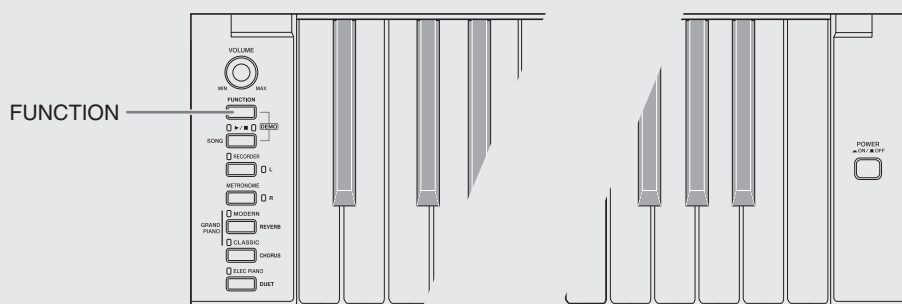
例： 消去するトラックにトラック2を選んだ場合

4. もう一度、FUNCTIONボタンを押しながら、消去したいトラックのボタン（RECORDERボタン（L）またはMETRONOMEボタン（R））を押します。

- 選んだトラックの録音内容が消去され、再生待機の状態になります。
- 操作を中止したい場合は、**RECORDER**ボタンを2回押してボタンのランプを消灯させます。

メモ

- 上記の手順3から、手順4で消去を実行するまでの間は、**RECORDER**ボタン（L）と**METRONOME**ボタン（R）以外の操作はできません。

A

その他の設定

FUNCTIONボタンと鍵盤を使って、音色や曲を選ぶだけでなく、音の効果や鍵盤のタッチなどのさまざまな設定ができます。

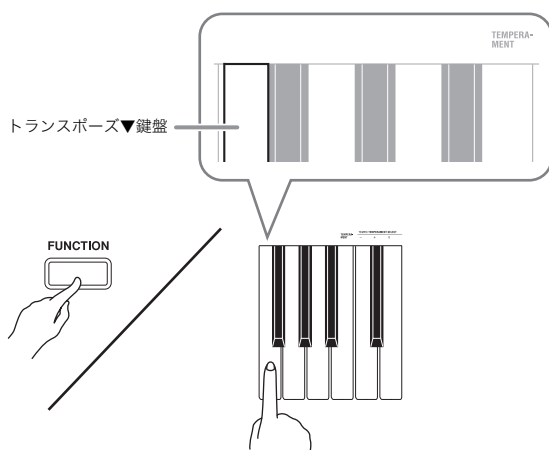
設定するには

1. 設定したい項目を19〜21ページの「設定項目一覧表」から選び、内容を確認します。

2. その項目の設定に使用する鍵盤の位置を、18ページの「設定に使用する鍵盤一覧」で確認します。

3. FUNCTIONボタンを押しながら、手順2で確認した鍵盤を押して設定を行います。

- 設定が完了すると、お知らせのための操作音が鳴ります。

例：トランスポーズの設定で、半音下げるには、トランスポーズ▼鍵盤を一回押します。

4. FUNCTIONボタンから指を離して、設定を終了します。

メモ

- 手順3で操作音が鳴らないようにすることもできます。19〜21ページの「設定項目一覧表」の中の「⑲ 操作音」を参照してください。

鍵盤を押して設定する操作のタイプについて

設定する項目によって、鍵盤操作のタイプが異なります。操作タイプには以下の3種類があります。

タイプA：設定値を直接選ぶ。

例：STRINGS鍵盤を押して、音色の「ストリングス」を選びます。

タイプB：＋/−や▼▲鍵盤で、設定値を1ずつ上下させる。

- 鍵盤を押し続けると、設定値が連続して変化します。
- 2つの鍵盤を一緒に押すと、最初の設定（初期値）に戻ります。

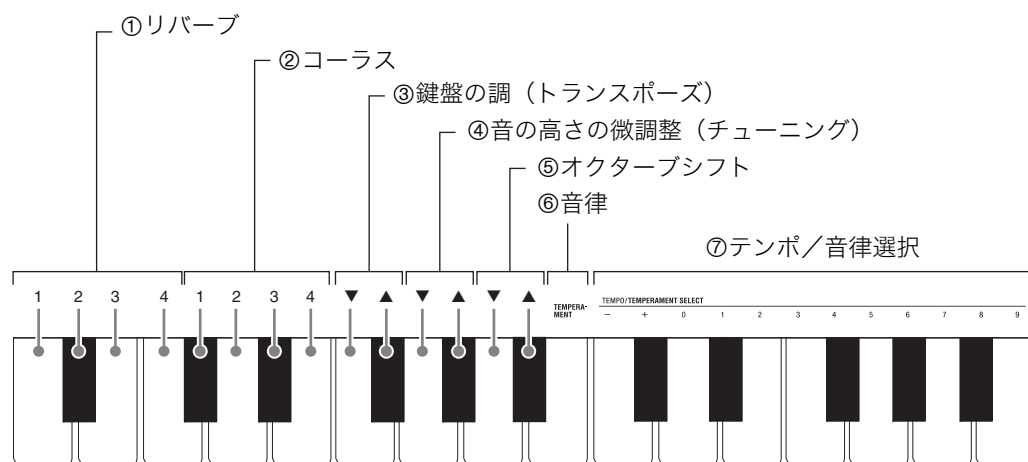
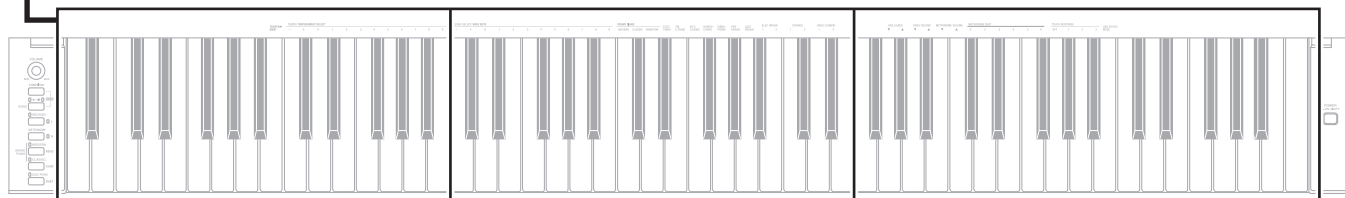
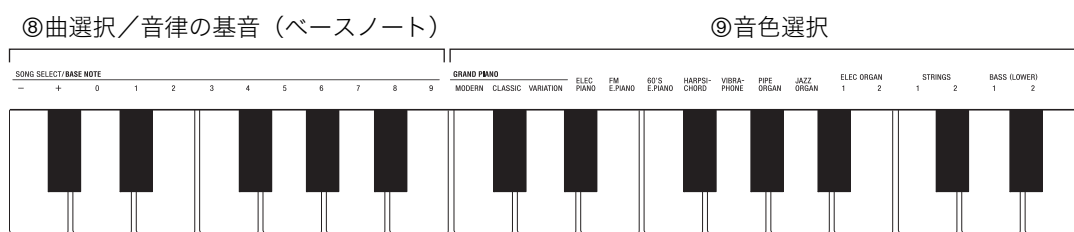
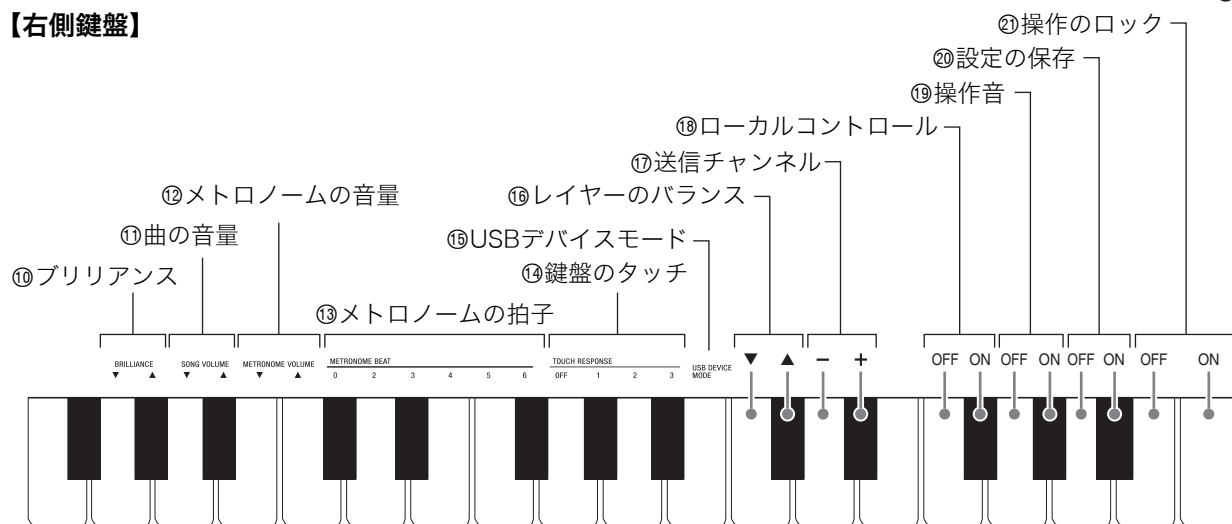
タイプC：数値入力鍵盤（0〜9）で2桁以上の設定値を入力する。

例：テンポ120なら、“1→2→0”と入力します。

メモ

- 19〜21ページの「設定項目一覧表」の中の「操作タイプ」から、設定したい項目の操作タイプを確認してください。

設定に使用する鍵盤一覧

- ①～㉑は19～21ページの「設定項目一覧表」での項目番号です。

設定項目一覧表

■音色についての設定

項目	設定値	操作タイプ（17ページ参照）	内容	備考
① リバーブ	1～4 初期値：2	A	音の残響効果を設定します。（8ページ参照）	
② コーラス	1～4 初期値：2	A	音に広がりを与える効果を設定します。（8ページ参照）	
⑨ 音色選択	6ページ参照 初期値：GRAND PIANO（MODERN）	A	鍵盤の音色を選びます。（6ページ参照）	
⑩ ブリリアンス（BRILLIANCE）	－3～0～3 初期値：0	B	音の明るさを設定します。（7ページ参照）	
⑯ レイヤーのバランス	－24～0～24 初期値：0	B	メインパートとレイヤーパートの音量バランスを設定します。（8ページ参照）	

■曲／メトロノームについての設定

項目	設定値	操作タイプ（17ページ参照）	内容	備考
⑦ テンポ（TEMPO）	20～255 初期値：120	B（＋/－） C（0～9）	ミュージックライブラリー曲やメトロノーム、録音機能での録音／再生などのテンポを設定します。（10ページ参照）	• 数値入力鍵盤（0～9）を使って設定する場合は、必ず3桁で入力してください。 例：テンポ90を入力するには、“0→9→0”と最初に“0”を入力する。 • 録音機能の使用中には、＋/－鍵盤を一緒に押すと“120”になります。
⑧ 曲選択（SONG SELECT）	01～60 初期値：01	B（＋/－） C（0～9）	ミュージックライブラリー曲を選びます。（12ページ参照）	• 数値入力鍵盤（0～9）を使って設定する場合は、必ず2桁で入力してください。 例：08番を入力するには、“0→8”と最初に“0”を入力する。 • 録音機能の使用中は、設定できません。
⑪ 曲の音量（SONG VOLUME）	00～42 初期値：42	B	ミュージックライブラリー曲の音量を設定します。	• 録音機能の使用中は設定できません。
⑫ メトロノームの音量（METRONOME VOLUME）	00～42 初期値：36	B	メトロノームの音量を設定します。（10ページ参照）	
⑬ メトロノームの拍子（METRONOME BEAT）	0、2、3、4、5、6 初期値：4	A	メトロノームの拍子を設定します。（10ページ参照）	• ミュージックライブラリー曲の再生中は、設定できません。

■ 鍵盤の設定

項目	設定値	操作タイプ （17ページ参照）	内容	備考
③ 鍵盤の調 （トランスポーズ）	−12〜0〜12 初期値：0	B	鍵盤全体の調を、半音単位で上下させることができます。	• ミュージックライブラリー曲の再生中と、デュエット機能のオン中は設定できません。 • 調を高く設定している場合、音色によっては最高鍵域で音の高さが不明瞭になる場合があります。
④ 音の高さの微調整 （チューニング）	−99〜0〜99 初期値：0	B	本機全体のピッチを、A4=440Hzから1セント単位（100セント=半音）で上下させることができます。	• ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
⑤ オクターブシフト	−2〜0〜2 初期値：0	B	鍵盤音域をオクターブ単位で変更します。	• メイン音色パートおよびレイヤー音色パートに設定できます。 • スプリット音色パートには設定できません。
⑥ 音律 （TEMPERAMENT） ⑦ 音律選択 （TEMPERAMENT SELECT） ⑧ 音律の基音 （ベースノート） （BASE NOTE）	音律：00〜16 ベースノート： −、＋、0〜9（C〜B） 初期値： 音律：00（平均律） ベースノート：C	FUNCTIONボタンを押し続けたまま、以下の鍵盤を順に押して設定します。 1. 音律⑥鍵盤を押す。 2. 音律選択⑦鍵盤で、音律を選ぶ。 3. 音律の基音⑧鍵盤で、ベースノートを選ぶ。	鍵盤の音律（スケール）を設定して通常の音律（12平均律）以外の音律を使う音楽（インド音楽、アラビア音楽、古典音楽など）の演奏ができます。	<音律> 00：平均律（Equal） 01：純正律長調（Pure Major） 02：純正律短調（Pure Minor） 03：ピタゴラス音律（Pythagorean） 04：キルンベルガー第III法（Kirnberger 3） 05：ヴェルクマイスター第1技法第3法（Werckmeister） 06：ミーントーン（Mean-Tone） 07：ラスト（Rast） 08：バヤティ（Bayati） 09：ヒジャーズ（Hijaz） 10：サバ（Saba） 11：ダシュティ（Dashti） 12：チャハルガー（Chahargah） 13：セガー（Segah） 14：グジャリ・トーディ（Gurjari Todi） 15：チャンドラコウンス（Chandrakauns） 16：チャルケシ（Charukeshi） <ベースノート> −：C ／＋：C♯／0：D ／1：E♭／2：E ／3：F ／4：F♯／5：G ／6：A♭／7：A ／8：B♭／9：B
⑭ 鍵盤のタッチ （TOUCH RESPONSE）	オフ（OFF）、1〜3 初期値：2	A	鍵盤を弾くときの強弱感度を設定します。 設定値が小さいほど、弱めのタッチで大きな音が出ます。	

■MIDI関連／その他の設定

項目	設定値	操作タイプ （17ページ参照）	内容	備考
⑮ USBデバイスモードの設定（USB DEVICE MODE）	MIDI、ストレージ 初期値：MIDI	－	本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、MIDIになります。本機で録音した曲をパソコンに保存したり、パソコンの曲データを本機に読み込む場合は、USBデバイスモードをストレージに切り替えます。（23ページ参照）	• ストレージへの切り替えが完了すると、**GRAND PIANO**（**MODERN**、**CLASSIC**）ボタン、**ELEC PIANO**ボタンのランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。 • この間は、本体操作ができなくなります。 • 設定（MIDI ⟷ ストレージ）は同じ操作をするごとに切り替わります。
⑰ 送信チャンネル	01～16 初期値：01	B	本機のMIDIメッセージを外部の機器へ送信するチャンネルを、1～16チャンネルの中から選びます。	
⑱ ローカルコントロール	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、鍵盤と音源が切り離され、鍵盤を弾いても音が鳴らなくなります。	• ミュージックライブラリー曲の再生中は設定できません。
⑲ 操作音	オフ、オン 初期値：オン	A	オフに設定すると、**FUNCTION**ボタンを押しながら鍵盤で設定を行ったときに、操作音が鳴らなくなります。	• 本設定は、本機の電源を切った後も保存されます。 • ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。
⑳ 設定の保存	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、その時点の各種設定内容※1が保存され、本機の電源を入れ直したときにその設定になります。 オフに設定すると、電源を入れ直したとき、本機全体の設定※2がリセットされます。	• ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、デュエットオン中、および録音機能の使用中は設定できません。 ※1 以下の設定は保存されません。 • デュエット機能のオン／オフ • 曲のLR（パート）選択 • ローカルコントロール ※2 操作音のオン／オフ設定は除く
㉑ 操作のロック	オフ、オン 初期値：オフ	A	オンに設定すると、ボタンがロックされて操作できなくなります（電源ボタンとロック解除の操作を除く）。誤ってボタンに触って設定が変わったりするのを防止できます。	• ミュージックライブラリー曲やメトロノームの再生中、および録音機能の使用中は設定できません。

パソコンとの接続について

パソコンと接続する

この楽器とパソコンを接続して演奏情報（MIDIデータ）の送受信ができます。楽器演奏をパソコンの音楽ソフトへ送って記録したり、パソコンからこの楽器へデータを送って音を鳴らすことができます。

パソコンの動作環境

MIDIデータを送受信するために必要なパソコン環境は下記のとおりです。お手持ちのパソコン環境を必ず事前にご確認ください。

● 対応OS

Windows® XP（SP2以降）※1
Windows Vista® ※2
Windows® 7 ※3
Mac OS® X（10.3.9、10.4.11以降、10.5.6以降、10.6.2以降）
※1 Windows XP Home Edition
Windows XP Professional（32bit版）
※2 Windows Vista（32bit版）
※3 Windows 7（32bit版、64bit版）

● USBポート

重要!

- 上記の対応OS以外のパソコンを接続すると、パソコンが故障する場合があります。絶対に接続しないでください。

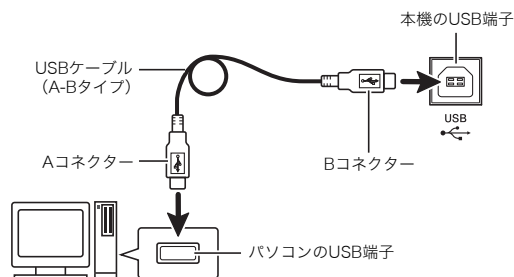
接続方法

重要!

- 正しい手順で接続しないとデータの送受信ができなくなる場合があります。必ず下記の手順に従って接続してください。

1. 本機の電源を切り、パソコンを起動させておきます。

- パソコンの音楽ソフトは起動させないでください。

2. 市販のUSBケーブルで、パソコンと本機を接続します。

3. 本機の電源を入れます。

- 初めての接続では、データを送受信するために必要なドライバが自動でパソコンにインストールされます。

4. パソコンの音楽ソフトを起動させます。

5. パソコンの音楽ソフトの設定で、MIDIデバイスとして下記のいずれかを選びます。

CASIO USB-MIDI：（Windows Vista、Windows 7、Mac OS Xの場合）
USBオーディオデバイス：（Windows XPの場合）

- MIDIデバイスの選択方法については、お使いの音楽ソフトのマニュアルをご覧ください。

重要!

- パソコンの音楽ソフトを起動させる前に、必ず本機の電源を入れておいてください。

メモ

- 1回接続に成功した後は、USBケーブルをつないだままでパソコンや本機の電源を入れなおすことができます。
- 本機のMIDIデータ送受信の詳しい仕様や、接続についての最新のサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。
http://casio.jp/support/emi/

MIDI 機能を使ってみる

MIDI について

電子楽器同士、あるいは電子楽器とコンピューター機器との間で情報をやり取りできるように、デジタル信号の仕様や端子の形状について定めた統一規格のことです。

メモ

- MIDIインプリメンテーションの詳細は、http://casio.jp/support/emi/ を参照してください。

17ページ「その他の設定」の「送信チャンネル」「ローカルコントロール」をご参照ください。

録音した曲をパソコンに保存する／パソコンの曲データを本機に読み込む

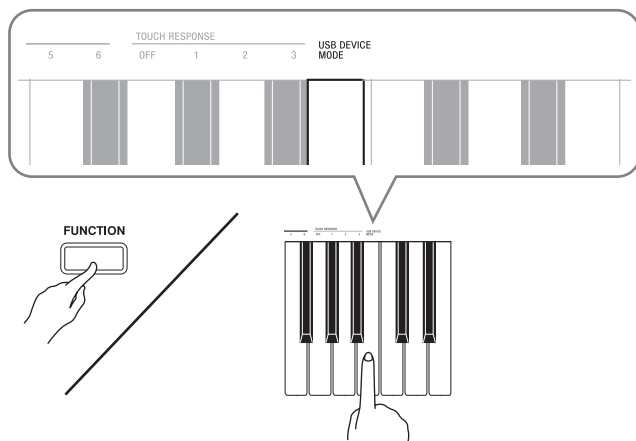
本機で録音した曲（以下、[録音機能] の曲、と呼びます）をパソコンに保存したり、カシオのホームページからパソコンにダウンロードした曲を本機のユーザーソング（ミュージックライブラリー 61番）に読み込んで再生したりすることができます。

重要!

- 本機とパソコンの間でデータを送受信中に、本機の電源を切ると本機内蔵メモリーのデータが破壊されることがあります。内蔵メモリーのデータが破壊された場合は、次回電源を入れたときに内蔵メモリーのフォーマットが実行されるため、電源を入れてからフォーマット完了（使用出来るようになる）まで、約20秒前後の時間がかかります。

1. 本機とパソコンを接続します（22ページ「パソコンと接続する」手順1～ 3）。

- MIDIソフトを立ち上げている場合は、閉じてください。

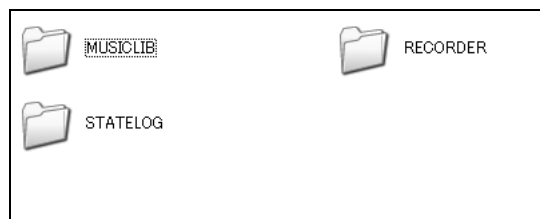
2. 本機のUSBデバイスモードをストレージに切り替えます。

- **FUNCTION**ボタンを押しながら、USBデバイスモード（USB DEVICE MODE）鍵盤を押します。
- 切り替えが完了すると、**GRAND PIANO**（**MODERN**、**CLASSIC**）ボタン、**ELEC PIANO**ボタンのランプが全て点滅し、その他のランプは消灯します。
- 詳しくは、「その他の設定」の「USBデバイスモードの設定（USB DEVICE MODE）」（21ページ）を参照してください。

3. パソコンの「マイ コンピュータ※」をダブルクリックします。

※Windows XPの場合。Windows Vista、Windows 7の場合は「コンピュータ」が表示されます。
Macの場合は、デスクトップに「PIANO」が表示されるので、手順3をとばして手順4へ進んでください。

- 「リムーバブル記憶域があるデバイス」のなかに、パソコンにつながった本機のメモリーが「PIANO」という名前で表示されています。

4. 「PIANO」をダブルクリックして開きます。

- 下記のフォルダが入っています。ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61番）に曲を読み込むには「MUSICLIB」を、[録音機能] の曲をパソコンに保存したり戻したりするには「RECORDER」を使います。

データの種類	フォルダ名	ファイル名と拡張子 ※
ユーザーソング	MUSICLIB	BIDSNG01.MID：SMF形式データ（フォーマット0/1） BIDSNG01.CM2：カシオオリジナル形式データ
[録音機能] の曲	RECORDER	BIDREC01.CSR：カシオオリジナル形式データ

※ 保存、読み込みの操作をする前にファイル名と拡張子が上記の内容になっていることを必ずご確認ください。

● Windows XP、Windows Vista、Windows 7では、拡張子が表示されないように初期設定されています。その場合は以下の手順で、拡張子を表示させせます。

- Windows XPの場合

1. 任意のフォルダを開きます。
2. [ツール] をクリックし、[フォルダ オプション] をクリックします。
3. [表示] タブをクリックします。次に、[詳細設定] ボックスの一覧から [ファイルおよびフォルダ] の [登録されている拡張子は表示しない] チェックボックスをクリックしてチェックを外します。
4. [OK] をクリックします。

- Windows Vista、Windows 7の場合

1. [スタート] ボタンの画像 をクリックし、[コントロールパネル]、[デスクトップのカスタマイズ]、[フォルダ オプション] の順にクリックします。
2. [表示] タブをクリックし、[詳細設定] の[登録されている拡張子は表示しない] チェックボックスをクリックしてチェックを外します。
3. [OK] をクリックします。

■ ユーザーソング（ミュージックライブラリー 61番）に曲を読み込むには

読み込みたい曲のファイル（.MIDまたは.CM2）を、MUSICLIBフォルダにコピーしてファイル名をBIDSNG01（.MIDまたは.CM2）に変更します。

- MUSICLIBフォルダにBIDSNG01.MIDとBIDSNG01.CM2の両ファイルがある場合、BIDSNG01.MIDのデータが本体に読み込まれます。BIDSNG01.CM2を読み込みたい場合はBIDSNG01.MIDを別のファイル名に変更してください。

メモ

- MUSICLIBフォルダ内にBIDSNG01.MIDがある状態で、コピーしたファイルをBIDSNG01.MIDに変更すると、パソコン上で「MIDIDATAの名前を変更できません」というエラーメッセージが出ます。その場合は、MUSICLIBフォルダ上のBIDSNG01.MIDのファイル名を別の名前に変更してから、コピーしたファイル名をBIDSNG01.MIDに変更してください。

■ ［録音機能］の曲をパソコンに保存するには

RECORDERフォルダ内の［録音機能］の曲ファイルをパソコンの保存先フォルダにコピーします。また、以前にパソコンに保存した［録音機能］の曲ファイルをRECORDERフォルダにコピー（上書き）することで、［録音機能］の曲を保存時の状態に戻すことができます。

5. ファイルの移動が終わったら、本機のUSBデバイスモードをMIDIに戻します。

- **FUNCTION**ボタンを押しながら、USBデバイスモード（USB DEVICE MODE）鍵盤を押します。
- MIDIモードに戻すと、MUSICLIBおよびRECORDERフォルダのファイルがユーザーソングおよび［録音機能］の曲に読み込まれます。

重要！

- データ交換にエラーが生じた場合：
SONG ▶/■ボタンのランプ（2つ）、GRAND PIANOボタン（MODERN、CLASSIC）のランプ、ELEC PIANOボタンのランプが全て点灯します。その他のランプは全て消灯します。

■ カシオホームページのソングデータのご利用について

CASIO Music Site（**http://music.casio.co.jp/**）の以下のサービスから、ソングデータをダウンロードして本機に転送することができます。

● インターネット・ソングバンク
● インターネット楽譜ナビ

メモ

- 本機では、ピアノ曲のみ使用できます。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをなされる場合には、著作権法を遵守の上、適切なご使用を心がけていただきますよう、お願いいたします。

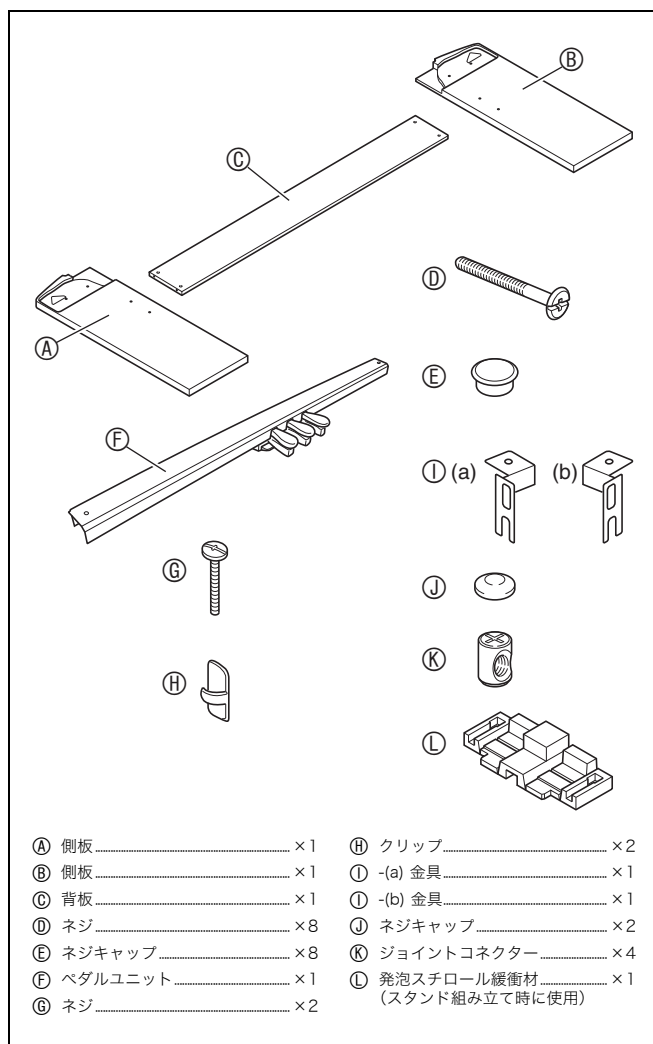
スタンドの組み立て方

付属品を確認しましょう

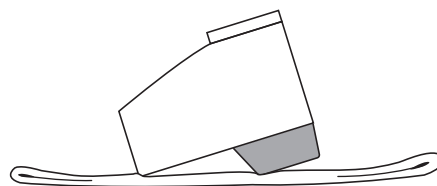
準備

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス（＋）ドライバーをご用意ください。

重要!

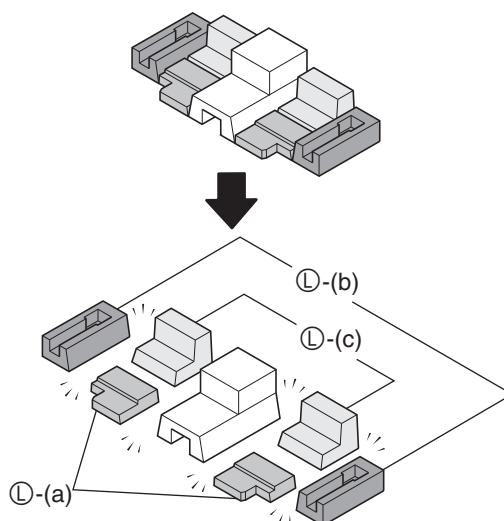
- ネジ類はビニール袋にまとめて、発泡スチロール緩衝剤内にあります。
  詳しくは本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。

スタンドを組み立てる

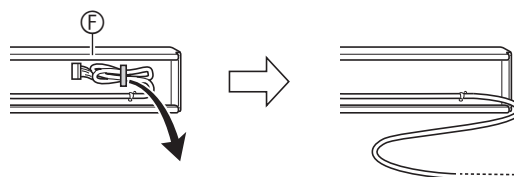
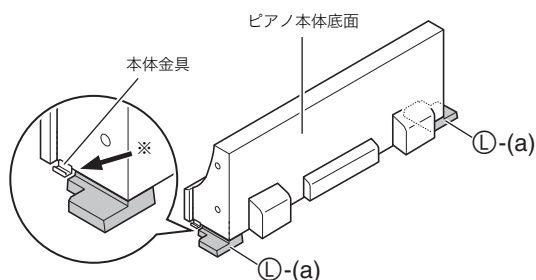
⚠注意

- 組み立ては、必ず二人で行ってください。
- 組み立ては、必ず平らな場所で行ってください。
- 組み立てが終わるまで、本体の鍵カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などをはさむことがあり、危険です。
- 組み立ての際は、手などをはさまないようにご注意ください。
- ピアノ本体を床に置くときは、本体底面が床に直接接触しないように、柔らかいもの（毛布、座布団など）の上に置いてください。

メモ

- 側板Ⓐ、Ⓑにピアノ本体および背板Ⓒを取り付けるときは、全体を横にした状態で行ってください。
- スタンド組み立て時は、必ず以降の順番を守ってください。

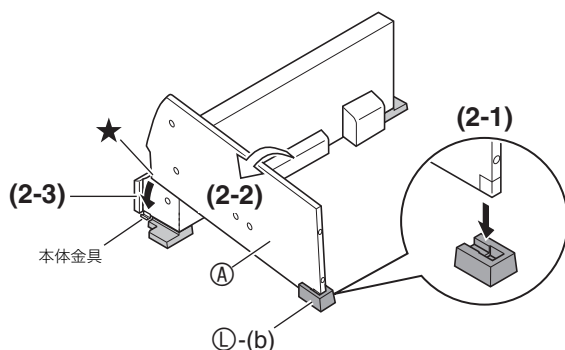
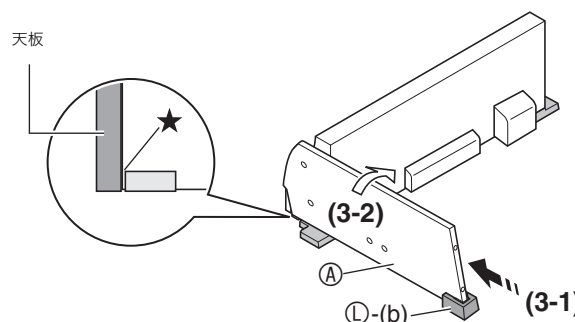
準備

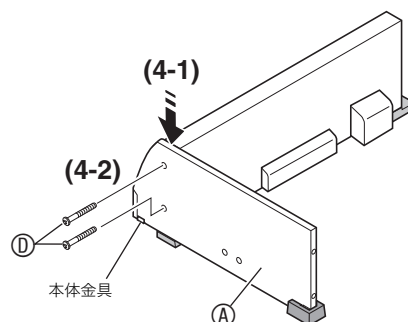
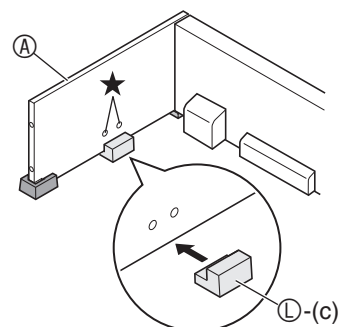
- スタンドの組み立てを始める前に、発泡スチロール緩衝材Ⓛを下図のように分割しておきます。分割した緩衝材のうち、Ⓛ-(a)、Ⓛ-(b)、Ⓛ-(c)の3種類（合計6個）を組み立ての補助材として使用します。
- 緩衝材がない場合は、雑誌など平らで厚みのあるものを使用してください。

- ペダルユニットⒻの中から、ペダルコードを引き出します。

1. ピアノ本体を緩衝材Ⓛ-(a)の上に乗せます。

※緩衝材Ⓛ-(a)の端と、本体金具の手前端が、ほぼ一致するように位置を合わせてください。

2. 以下の手順で、側板Ⓐの角★を本体金具に差し込みます。

重要!
- 本体金具に側板を差し込むときに、角★を傷つけないよう慎重に作業を行ってください。手順（2-2）で側板を傾けすぎると、傷つきやすくなりますのでご注意ください。

(2-1) 側板Ⓐのコーナー金具がついている角を、緩衝材Ⓛ-(b)に差し込みます。
(2-2) 側板Ⓐを、図の矢印の方向に少しだけ傾けます。
(2-3) 傾けた角度を保ったまま、側板Ⓐの角★を、本体金具に差し込みます。

3. 側板とピアノ本体の位置関係を調節します。
(3-1) 側板Ⓐを、図の黒い矢印の方向に押して、側板Ⓐとピアノ本体との隙間★ができるだけ空かないよう位置を調節します。
(3-2) 側板Ⓐの傾きを戻して、ピアノ本体の左側面に密着させます。

重要!
- 手順（3-1）では、しっかりと奥まで押してください。側板が途中の位置で止まっていると、手順（3-2）で傾きを戻すことができなくなります。

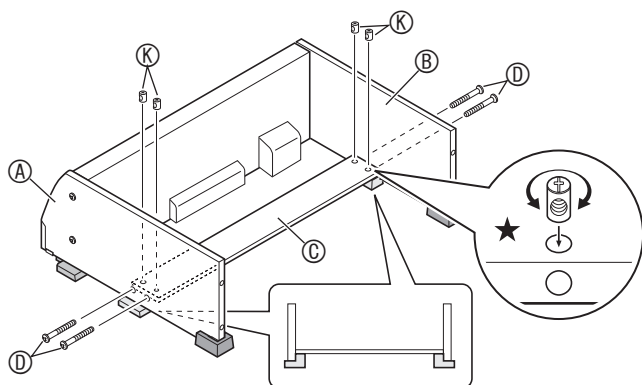
4. 側板をピアノ本体にネジ留めします。
(4-1) 側板Ⓐを下向きに押して、本体金具の底までしっかり押し込みます。
(4-2) ネジⒹで、側板Ⓐをピアノ本体にネジ留めします。

5. 緩衝材Ⓛ-(c)を、側板Ⓐの下に挿入します。

重要!
- 緩衝材の位置が、側板のネジ穴★の真下になるように挿入してください。

6. 以上の手順2～5と同様の方法で、もう一方の側板Ⓑをピアノ本体に取り付けます。

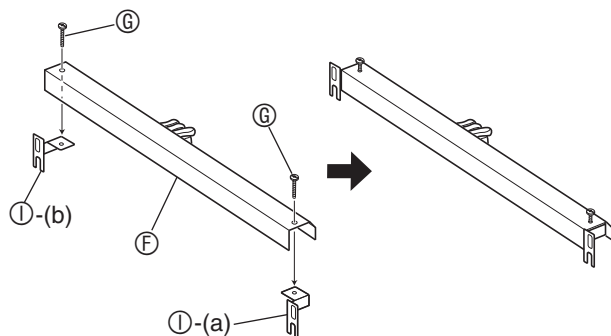
7. 背板Ⓒを側板Ⓐ、Ⓑに取り付けます。取り付けには、ネジⒹ、ジョイントコネクターⓀをそれぞれ4本使用します。

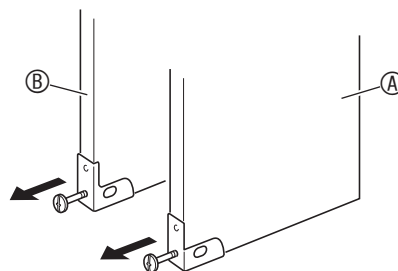
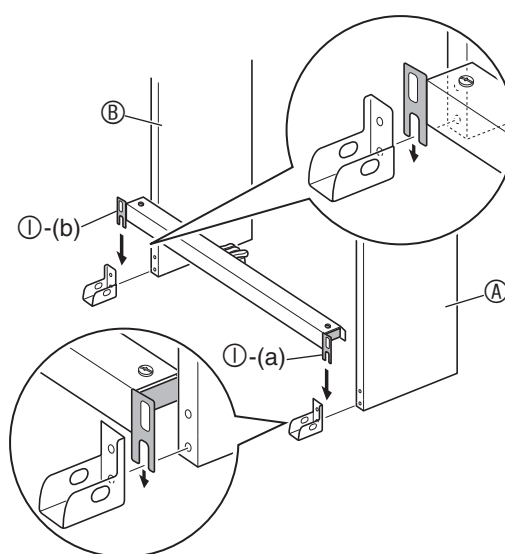
- 背板Ⓒの4箇所にジョイントコネクター Ⓚを入れます。ジョイントコネクターのネジ穴をそれぞれ側板側のネジ穴に合わせるように入れます。
- 背板Ⓒを持ち上げてネジの穴を側板の穴に合わせてネジⒹを取り付けます。
- ネジⒹがジョイントコネクター Ⓚのネジ穴に入りにくい場合は、ドライバーを使用してジョイントコネクターを回転させ、調節してください（図中の★）。

⚠**注意**
- ジョイントコネクター Ⓚのネジ穴と合っていない状態でネジⒹを無理にしめるとネジ山がつぶれることがあります。

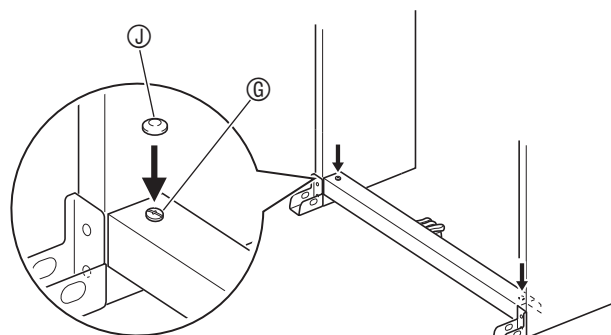
- 背板Ⓒの片側を仮留めして、もう一方をしっかり留めます。
- 次に、仮留めしてある背板Ⓒの片側をしっかり留めます。

8. すべてのネジをしっかりと固定したら、緩衝材を取り除き、スタンドをおこします。

- スタンドをおこした後に、これまでに取り付けた側板のネジ8箇所に、ネジキャップⒺを装着します。

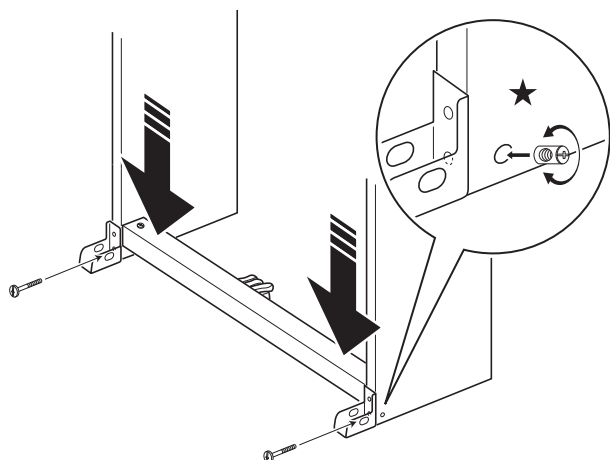
9. ペダルユニットⒻに金具Ⓘを取り付けて、ネジⒼで仮留めします。

本機を壁に近づけて設置する場合は、28ページの手順10へ進んでください。

10. スタンドの側板Ⓐ、Ⓑの底面についているコーナー金具のネジを一度外します。

11. 図のように、手順10で外したコーナー金具を逆向きにしてから、ペダルユニットの金具Ⓘ-(a)とⒾ-(b)部を、コーナー金具と側板ⒶとⒷで挟みます。

⚠**警告**
- コーナー金具は、本機を倒れにくくする用途を兼ね備えています。本機を壁から離して設置する場合には、図のように向きを変えて取り付けてください。元の向きのままでは、本機が後方に傾いたとき、転倒しやすく怪我の原因となります。

12. 手順9で仮留めしたネジⒼをしっかり締めます。

- ネジⒼにキャップⒿをかぶせます。

13. 手順10で外したネジでスタンドと金具を固定します。

重要!

- このとき、ペダルユニットの端を下向きに押さえつけながら、ネジを締めてください。

- 金具を取り付けるネジが側板にあらかじめ付いているジョイントコネクターのネジ穴に入りにくい場合は、ドライバーを使用してジョイントコネクターを回転させ、ネジ穴をネジの入る向きに合わせるように調節してください（図中の★）。

<ジョイントコネクターとネジの締め方>

(1) ネジを左方向（反時計回り方向）に3回転ほど回して、ネジがジョイントコネクターの中心にあることを確認します。

(2) ネジを右方向（時計回り方向）にゆっくり回し、抵抗なくネジが締まることを確認してください。抵抗感がある場合、ネジとジョイントコネクターが確実に組み合っていませんので、再度ネジを左方向に回して確実に組み合わせてください。

(3) ネジがうまく入らない場合はドライバを使用してジョイントコネクターを180度回転させ反対側のネジ穴をネジの入る向きに合わせて(1)、(2)の手順を再度行なってください。

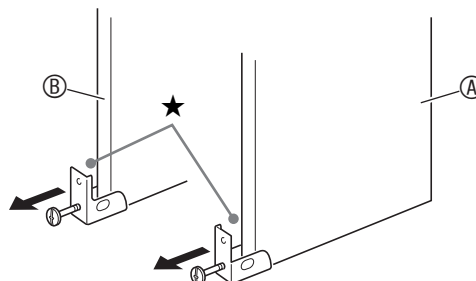
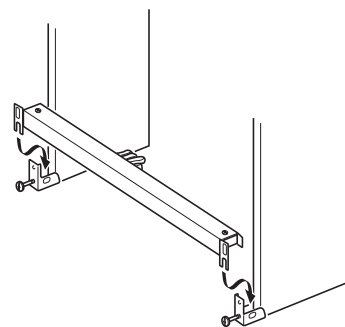
- 無理にネジを締めると、ネジとジョイントコネクターのネジ山がつぶれて使えなくなりますのでご注意ください。

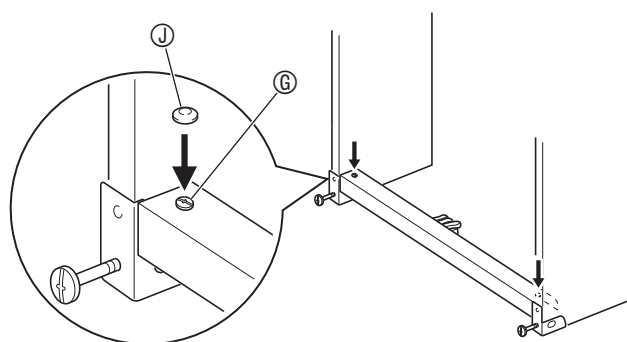
14. ペダルのコードを接続します。

- 29ページの「コード類を接続する」をご覧ください。

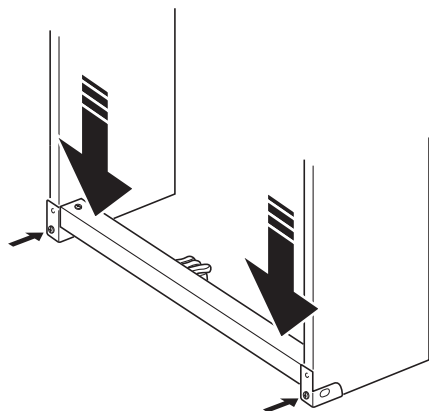
壁に近づけて本機を設置するには

- 手順1～9（26、27ページ）の組み立てを行ってください。

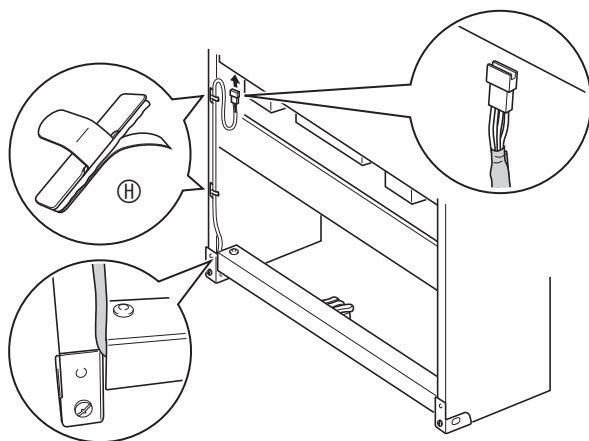
10. スタンドの側板Ⓐと Ⓑの底面についているコーナー金具のネジをゆるめて、図のように側板とコーナー金具の間に隙間★を空けます。

11. 手順10で空けた隙間に、図のようにペダルユニットの金具を差し込みます。

12. 手順9で仮留めしたネジⒼをしっかり締めます。

- ネジⒼにキャップⒿをかぶせます。

13. 手順10でゆるめたネジを締めて、側板とコーナー金具を固定します。

重要!

- このとき、ペダルユニットの端を下向きに押さえつけながら、ネジを締めてください。

コード類を接続する

1. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクターに差し込みます。

- 根元までしっかりと差し込んでください。
- ペダルコードを側板Ⓑの2箇所に、クリップⒽで固定します。

譜面立ての立て方

1. 図のように、譜面立てをピアノ本体の上部にあるネジに差し込み、ネジを締めます。

資料

困ったときは

現象	原因	解決方法	参照
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUMEつまみが“MIN”の位置にある。	1. VOLUMEつまみを“MAX”の方に動かす。	☞ 7ページ
	2. ヘッドホンがつながっている。またはヘッドホンの変換プラグがPHONES端子に残っている。	2. ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES端子から抜く。	☞ 5ページ
	3. ローカルコントロールの設定がオフになっている。	3. ローカルコントロールの設定をオンにする。	☞ 21ページ
ピッチがずれて聴こえる。	1. 鍵盤の調(トランスポーズ)の設定が“0”以外になっている。	1. 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。	☞ 20ページ
	2. 音の高さの微調整(チューニング)の設定が“0”以外になっている。	2. 設定を“0”にする。または、電源を入れ直す。	☞ 20ページ
	3. オクターブシフトが設定されている。	3. オクターブシフトの設定を“0”にする。	☞ 20ページ
ペダルを踏んでも効果がかからない。	ペダルのコードが接続されていない。	正しく接続する。	☞ 29ページ
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例:弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	「設定の保存」がオンになっている。	「設定の保存」をオフにして、電源を入れ直す。	☞ 21ページ
パソコンと接続したとき、データの送受信ができない。	ー	1. 本機とパソコンがUSBケーブルで正しく接続されているか、あるいはパソコンの音楽ソフトの設定でデバイスが正しく選ばれているか確認する。 2. 本機の電源を切ってパソコンの音楽ソフトを終了させてから、本機の電源を入れてパソコンの音楽ソフトを再起動させてみる。	☞ 22ページ
電源を入れてから使用できるようになるまで、かなり時間がかかる。	前回の電源オフ時、本機とパソコンの間でデータを送受信中であったため、本機内蔵メモリーのデータが破壊された。内蔵メモリーのフォーマットが実行されるため。	電源を入れてから内蔵メモリーのフォーマット完了まで、約20秒前後の時間がかかります。使用できるようになるまでお待ちください。 また、本機とパソコンの間でデータを送受信中に電源を切らないようにしてください。	☞ 23ページ
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理※によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※ 元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。		
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。		

製品仕様

型式	PX-730BK/PX-730CY/PX-7WE
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大128音
音色	16種類 • レイヤー可（ベース音色を除く） • スプリット可（低域はベース音色のみ）
エフェクト	ブリリアンス（－3〜0〜3）リバーブ（4種）、コーラス（4種）、DSP、アコースティックレゾナンス
メトロノーム	• 拍子：0, 2, 3, 4, 5, 6 • テンポ範囲：20〜255
デュエット	音域変更可（－1〜2オクターブ）
ミュージックライブラリー	• 曲数:60曲、ダウンロード曲:1曲(最大65KB)※ ※ 表記容量は、1KB=1024バイト、1MB=1024^2バイト換算です。 • 曲の音量：調節可 • パートのオン／オフ：L、R
録音機能	• 方式：リアルタイム録音、再生 • 曲数：1曲 • 録音トラック数：2トラック • 容量：合計約5,000音符 • 録音内容の保持：内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー（ハーフペダル可能）、ソフト、ソステヌート
その他の機能	• タッチセレクト：3種類、オフ • トランスポーズ：2オクターブ（－12〜0〜12） • チューニング：A4＝440.0Hz±99セント（可変） • 音律 • オクターブシフト • 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	• PHONES端子：標準ステレオジャック×2 出力インピーダンス3Ω 出力電圧1.5V（RMS）MAX • 電源端子：DC12V • USB端子：タイプB • ペダルコネクター
スピーカー	ϕ12cm×2（出力8W＋8W）
電源	家庭用AC100V電源使用　ACアダプター AD-A12150LW使用
消費電力	12V ⎓ 18W
サイズ	本体＋スタンド：幅137.4×奥行29.8×高さ79.2cm
質量	本体＋スタンド：約30.6kg
付属品	ACアダプター（AD-A12150LW）、スタンド、ペダルユニット、~~ヘッドホン（PX-7のみ）、~~譜面立て、取扱説明書（本書）、保証書、楽譜集、安全上のご注意

• 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

【別売品のご案内】

商品名	品番
ヘッドホン	CP-16
イス	CB-5 CB-7 CB-30

カシオ電子楽器取扱店で購入可能。

• 店頭のカシオ電子キーボードカタログでより詳しい情報がご覧になれます。
http://casio.jp/emi/catalogue

音色リスト

音色名	プログラムチェンジ	バンクセレクトMSB
GRAND PIANO MODERN	0	0
GRAND PIANO CLASSIC	0	1
GRAND PIANO VARIATION	0	2
ELEC PIANO	4	0
FM E.PIANO	5	0
60'S E.PIANO	4	1
HARPSICHORD	6	0
VIBRAPHONE	11	0
PIPE ORGAN	19	0
JAZZ ORGAN	17	0
ELEC ORGAN 1	16	0
ELEC ORGAN 2	16	1
STRINGS 1	49	0
STRINGS 2	48	0
BASS (LOWER) 1	32	0
BASS (LOWER) 2	32	1

ソングリスト

NO.	曲名
01	ノクターン 作品９の２
02	幻想即興曲 作品６６
03	エチュード 作品１０の３ ＜別れの曲＞
04	エチュード 作品１０の５ ＜黒鍵＞
05	エチュード 作品１０の１２ ＜革命＞
06	エチュード 作品２５の９ ＜蝶々＞
07	プレリュード 作品２８の７
08	ワルツ 作品６４の１ ＜小犬のワルツ＞
09	ワルツ 作品６４の２
10	楽興の時 第３番
11	即興曲 作品９０の２
12	軍隊行進曲 第１番（連弾）
13	春の歌 「無言歌 第５集」より
14	楽しき農夫 「ユーゲント・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について 「子供の情景」より
16	トロイメライ 「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット ＢＷＶ Ａｎｈ.１１４ 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィーア小曲集」より
19	インヴェンション 第１番 ＢＷＶ ７７２
20	インヴェンション 第８番 ＢＷＶ ７７９
21	インヴェンション 第１３番 ＢＷＶ ７８４
22	プレリュード 第１番 ＢＷＶ ８４６「平均律クラヴィーア曲集 第１巻」より
23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品３６の１ 第１楽章
26	ソナチネ 作品２０の１ 第１楽章
27	ソナタ Ｋ.５４５ 第１楽章
28	ソナタ Ｋ.３３１ 第３楽章 ＜トルコ行進曲＞
29	ロンド Ｋ.４８５
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第１楽章
33	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第２楽章
34	ソナタ 作品１３ ＜悲愴＞ 第３楽章
35	ソナタ 作品２７の２ ＜月光＞ 第１楽章
36	ラプソディ 第２番
37	ワルツ 作品３９の１５（連弾）
38	愛の夢 第３番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユーモレスク　作品１０１の７
43	メロディー 「叙情小曲集 第２集」より
44	シシリエンヌ 作品７８
45	子守唄 「ドリー組曲」より（連弾）
46	アラベスク 第１番
47	亜麻色の髪の乙女 「前奏曲集」より
48	パスピエ 「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第１番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターテイナー
53	メープル・リーフ・ラグ
54	アラベスク 「２５の練習曲 作品１００」より
55	スティリアンヌ 「２５の練習曲 作品１００」より
56	アヴェ・マリア 「２５の練習曲 作品１００」より
57	帰途 「２５の練習曲 作品１００」より
58	貴婦人の乗馬 「２５の練習曲 作品１００」より
59	第１３番 「３０番練習曲 作品８４９」より
60	第２６番 「３０番練習曲 作品８４９」より

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■ 設置上のご注意

本機を次のような場所に設置しないでください。

- 直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
- 極端に温度の低い場所。
- ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所（これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります）。

■ 本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■ 付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の“ウエルドライン”と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のかからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただき、直らないときには次の処置をしてください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノリペアセンターが修理をさせていただきます。

- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターまでご連絡ください。

● 保証期間が過ぎているときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターまでご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けております。修理をお急ぎの場合には、事前に最寄りのカシオテクノお客様修理相談センターにご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承いただきたいこと

●「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただくこと」があります。
また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。

● 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。

● 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。

● 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内のカシオテクノお客様修理相談センターにご依頼ください。

アフターサービスなどについておわかりにならないときは

お買い上げの販売店または取扱説明書等に記載のカシオテクノお客様修理相談センターにお問い合わせください。

Model PX-730 / PX-7　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Version : 1.0

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能範囲	1 ～ 16 1 ～ 16	1 ～ 16 1 ～ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代　用	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	モード3 × ＊＊＊＊＊＊＊	
ノート ナンバー：	音　域	0 ～ 127 ＊＊＊＊＊＊＊	0 ～ 127 0 ～ 127*1	*1：音色による
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 8nH v = 64	○ 9nH v = 1 ～ 127 × 9nH v = 0, 8nH v =**	**は関係なし
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ○	
ピッチ・ベンド		×	○	
コントロール チェンジ	0,32	○	○	バンクセレクト
	1	×	○	モジュレーション
	5	×	○	ポルタメントタイム
	6, 38	×	○	データエントリー LSB, MSB *2
	7	○	○	ボリューム
	10	×	○	パン
	11	×	○	エクスプレッション
	16	×	○	DSPパラメーター0 *2
	17	×	○	DSPパラメーター1 *2
	18	×	○	DSPパラメーター2 *2
	19	×	○	DSPパラメーター3 *2
	64	○	○	ダンパー
	65	×	○	ポルタメントスイッチ
	66	○	○	ソステヌート
	67	○	○	ソフト
	76	×	○	ビブラートレート
	77	×	○	ビブラートデプス
	78	×	○	ビブラートディレイ
	80	×	○	DSPパラメーター4 *2
	81	×	○	DSPパラメーター5 *2
	82	×	○	DSPパラメーター6 *2
	83	×	○	DSPパラメーター7 *2
	84	×	○	ポルタメントコントロール
	91	×	○	リバーブセンド
	93	○	○	コーラスセンド
	100, 101	×	○	RPN LSB, MSB *2
	120	×	○	オールサウンドオフ
	121	○	○	リセットオールコントローラー
プログラムチェンジ：	設定可能範囲	○ ＊＊＊＊＊＊＊	○ 0 ～ 127	
エクスクルーシブ		○	○	*2
コモン	：ソング・ポジション ：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	：クロック ：コマンド	○ ○	× ×	
その他	：ローカル ON／OFF ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× ○ × ×	× ○ ○ ×	
備　考		*2：詳細は、MIDI インプリメンテーション（http://casio.jp/support/emi/）参照		

モード1：オムニ・オン、ポリ　　モード2：オムニ・オン、モノ　　○：あり
モード3：オムニ・オフ、ポリ　　モード4：オムニ・オフ、モノ　　×：なし